

大学の教育研究上の目的に関する情報

工学部の教育研究上の目的（学則第1条の3）

本学は、次に掲げる教育目標及び研究理念をもって人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的とする。

■教育目標

教育指針「心を磨き、技を極め、夢に挑む」に基づき、学生一人ひとりが夢を持ち、社会での自立とその夢の実現に必要な力を主体的に養い、自らの成長に自信を持って就職し、社会から喜ばれ歓迎される技術者となるよう教育する。

■研究理念

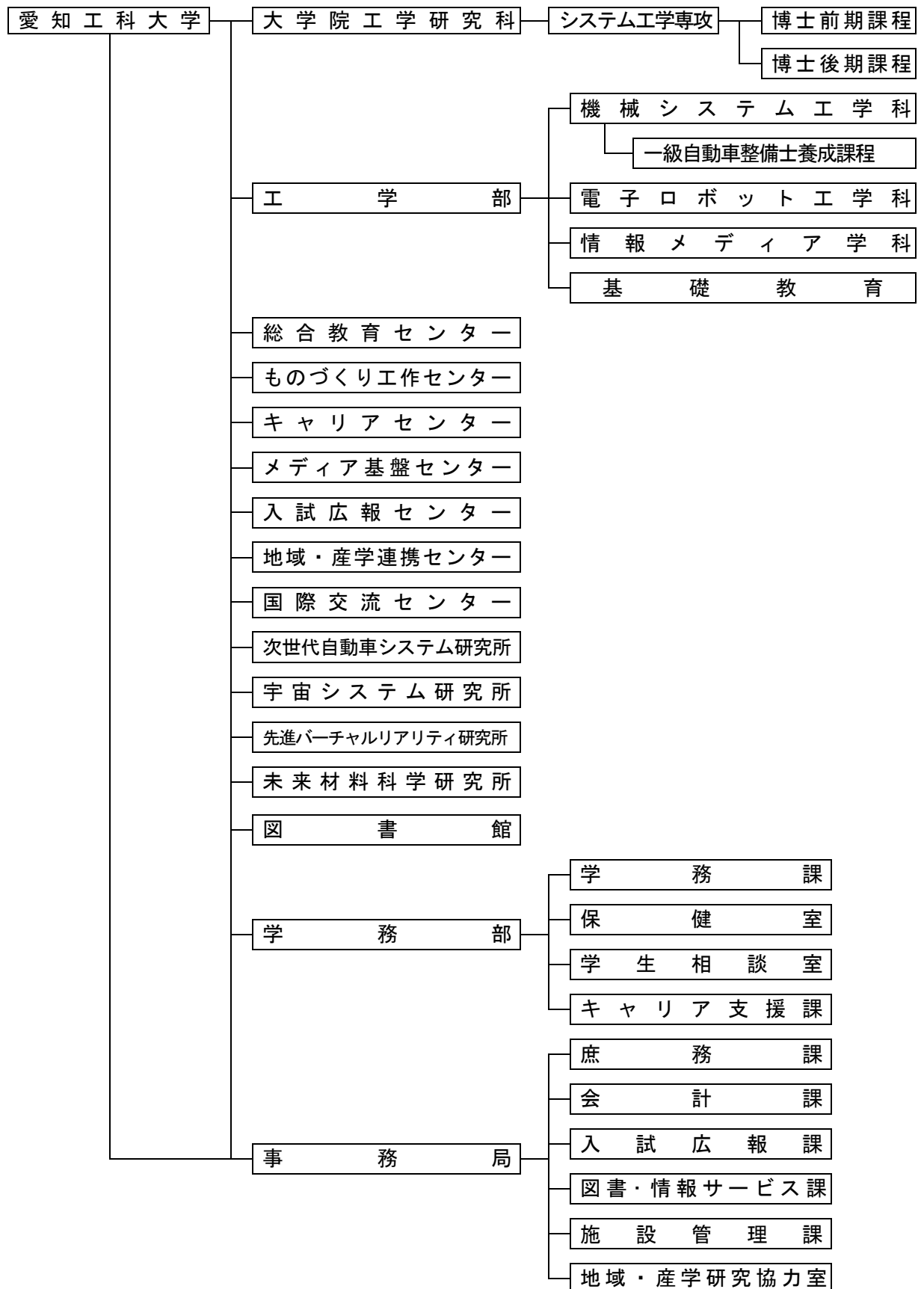
一人ひとりの自由な発想によって学術の深奥を極めるとともに未来を創る夢に挑み、その成果を教育及び社会に還元し工科大の使命を果たすことに努める。

大学院工学研究科における教育研究上の目的（大学院学則第1条の2）

工学研究科は、機械工学、電気電子工学、情報工学の各分野における体系的な高度専門知識を修得させ、地域産業に密着した独創性豊かな優れた研究者、高度専門技術者・職業人等の育成を目的とする。

教育研究上の基本組織に関する情報

教育研究上の基本組織



教員の組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する情報

学部

2021年5月1日現在

組織	専任教員数					教員一人当たりの学生数	助手	兼任(非常勤)教員数
	教授	准教授	講師	助教	計			
機械システム工学科	4	4	2	6	16	20.0	1	
電子ロボット工学科	3	5 【1】	0	1	9 【1】		0	43
情報メディア学科	5	2 【1】	1	2	10 【1】		0	【10】
基礎教育	1	5 【2】	1	1 【1】	8 【3】		0	
その他	1	0	0	0	1	-	0	-
合計	14 【0】	16 【4】	4 【0】	10 【1】	44 【5】	-	1	43 【10】

備考【 】女子数で内数

大学院

2021年5月1日現在

研究科・専攻		専任教員数					研究指導員 及び 研究指導補助 教員数合計	研究指 導 補助 教員数	設置基 準上 必要研 究 指導員 数	設置基準上 必要研究指 導 教員数及び 研究指導補 助 教員数
		教 授	准 教 授	講 師	助 教	計				
工学研 究科	システム工学 専攻 (前期課程)	0	0	0	0	0	22	0	4	7
	システム工学 専攻 (後期課程)	0	0	0	0	0	(上記の内10)	0	4	7
合 計		0	0	0	0	0	22	0	8	14

年齢構成

2021年5月1日現在

職位	71以 上	66～ 70	61～ 65	56～ 60	51～ 55	46～ 50	41～ 45	36～ 40	31～ 35	25～ 30	計
教授		3	4	2	3	2					14
%		(6.8)	(9.1)	(4.5)	(6.8)	(4.5)					(31.8)
准教授			2	1	3	5	5				16
%			(4.5)	(2.3)	(6.8)	(11.4)	(11.4)				(36.4)
講師			1	1	2						4
%			(2.3)	(2.3)	(4.5)						(9.1)
助教				1	2	2	2	1	2		10
%				(2.3)	(4.5)	(4.5)	(4.5)	(2.3)	(4.5)		(22.7)
合計	0	3	7	5	10	9	7	1	2	0	44
%	(0.0)	(6.8)	(15.9)	(11.4)	(22.7)	(20.5)	(15.9)	(2.3)	(4.5)	(0.0)	(100)

教員紹介

入学者に関する受入方針及び入学者数、収容定員及び在学に関する学生の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報

工学部

工学部・学科の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

様々な人と向き合って議論・交流・相互理解を行い、お互いに教えあいながら学ぶ協同学習を通して、教育目標「自立と夢の実現」の達成に必要な力（「意欲」「人間性」「能力」）を身に付け、自身を成長させたいという意欲と基礎学力（数学的探求力、読解力、科学的思考力）を有する人を幅広く受け入れます。

数学的探求力：問題の特徴を見つけ出し、関連する数学的な知識と論理能力を使い、問題を解決できる力で、高校での数学科目群の履修・修得を求めます。

読解力：日本語あるいは英語のテキストを理解し、利用して、熟考できる力で、高校での国語及び英語の履修・修得を求めます。

科学的思考力：科学的知識を利用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出せる力で、高校での化学あるいは物理の履修・修得を求めます。

■機械システム工学科

1. 自動車など便利な機械の設計開発や製造分野についての学習意欲と基礎学力のある人を求めます。
2. 機械の仕組みやメカニズムを観察したり作動原理を考えたりすることに興味があり、機械技術者に成長したいという意欲のある人を求めます。
3. 将来、モノづくり分野で協同して作業するために必要な能力をバランスよく向上させたいという意欲のある人を求めます。

■機械システム工学科 一級自動車整備士養成課程

二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士の両資格を取得している人で、下記要件を満たす人を求めます。

1. 自動車など便利な機械の整備や開発分野についての学習意欲と基礎学力のある人。
2. 自動車の仕組みやメカニズムを観察したり作動原理を考えたりすることに興味があり、高度な整備技術者や開発技術者に成長したいという意欲のある人。
3. 将来、モノづくり分野で協同して作業するために必要な能力をバランスよく向上させたいという意欲のある人。

■電子ロボット工学科

1. 自立と夢の実現を目指す本学の教育方針に向けて、自らの得意とする専門分野での能力を伸ばしたいという意欲を持ち、そのための基礎学力のある人を求めます。

2. 将来、広く国内外で活躍しようとする熱意と意欲を持ち、またそれを支える優れた人間性を兼ね備えた人を求めます。
3. 電子制御分野やロボット工学分野について学び、モノづくりを通して社会に貢献したいと意欲をもっている人を求めます。

■情報メディア学科

1. プログラミング、ネットワーク、情報システム開発など情報通信工学の分野、あるいはコンピュータを用いたデジタルコンテンツ制作技術の分野について学び自分を成長させたいという夢を持つ人を求めます。
2. 本学のAUT教育法に基づき自らを成長させたいという意欲を持つ人、そのための基礎学力のある人を幅広く求めます。

工学部・学科の学生数

2021年5月1日現在

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	在学生総数	編入学生数(内数)	在籍学生数				収容定員充足率
						1年次	2年次	3年次	4年次	
機械システム工学科	75	25	350	305	35	75	69	77	84	87.1
電子ロボット工学科	65	0	260	209	0	58	57	38	56	80.4
情報メディア学科	85	0	340	367	5	108	93	87	79	107.9
合計	225	25	950	881	40	241	219	202	219	92.7

工学部・学科の卒業者数、進学者数、就職者数

2021年3月31日現在

学科	卒業者数	進学者数	就職者数
機械システム工学科	65	2	63
電子制御・ロボット工学科	37	2	30
情報メディア学科	48	1	41
合計	150	5	134

工学部・学科の留年者数

2021年5月1日現在

学科	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
機械システム工学科	21	13	14	22	21
電子ロボット工学科	7	14	13	13	34
情報メディア学科	11	13	24	25	29
合計	39	40	51	60	84

工学部・学科の退学・除籍者数および中退率

2021年3月31日現在

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
退学	22	23	19	39	42
除籍	1	1	1	4	6
合計	23 (3.9%)	24 (3.1%)	20 (4.3%)	43 (3.9%)	48 (5.6%)

()は中途退学率:当該年度中の退学者・除籍者数÷当該年度の在籍者数

工学部の進路データ

大学院

大学院の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

科学技術を通しての社会貢献や学問探求への強い意欲を有し、エンジニアとしての土台となる力（総合力、実践力）並びに先端的なモノづくりにつながる力（設計力、製作力）を身につけた次のような人を求めます。

1. システム工学分野の高度な研究開発に主体的に取り組もうとする人
2. 地域社会を支える科学技術の創造と発展に寄与する意欲のある人
3. 地球環境に配慮し、人間社会の持続的発展に寄与する研究開発をグローバルな視点から進めようとする人

大学院の学生数

2021年5月1日現在

専攻	入学定員	収容定員	在籍学生総数	在籍学生数		
				1年次	2年次	3年次
博士前期課程 システム工学専攻	7	14	8	4	4	
博士後期課程 システム工学専攻	3	9	0	0	0	0
合 計	10	23	8	4	4	0

大学院の卒業者数、進学者数、就職者数

2021年3月31日現在

専攻	修了者数	進学者数	就職者数
博士前期課程 システム工学専攻	0	0	0
博士後期課程 システム工学専攻	0	0	0
合 計	0	0	0

大学院の退学・除籍者数および中退率

2021年3月31日現在

専攻		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
博士前期課程 システム工学専攻	退学	1	1	0	0
	除籍	0	0	0	0
博士後期課程 システム工学専攻	退学	0	0	0	0
	除籍	1	0	0	0
合 計		2 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (33.3%)	0 (0.0%)

()は中途退学率: 当該年度中の退学者・除籍者数÷当該年度の在籍者数

大学院の修了者数

2021年3月31日現在

専攻	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
博士前期課程 システム工学専攻	1	0	2	0
博士後期課程 システム工学専攻	0	0	0	0
合計	1	0	2	0

進学及び就職等の状況

[大学院の進路データ](#)

社会人学生数

2021年5月1日現在

専攻	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工学部	0	0	1	1	1
工学研究科	1	0	0	3	3

留学生在籍者数及び海外派遣学生数

2021年5月1日現在

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工学部	留学生	23	30	32	41	39
	海外派遣 学生数	0	0	0	0	0
大学院	留学生	0	0	0	1	0
	海外派遣 学生数	0	0	0	0	0

学位授与数

2021年3月31日現在

学位名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学士(工学)	114	130	149	145	150
修士(工学)	1	1	0	2	0
博士(工学)	0	1	0	0	0

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関する情報

工学部

工学部・学科の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

「意欲」「人間性」「能力」をバランス良く向上させて「総合力」を培うとともに、この「総合力」を活かす「実践力」を身に付け、段階的に設定される実践的な課題・実習・実験を通してモノづくりに必須となる「設計力」と「製作力」を修得し、社会から喜ばれ歓迎される人材となるためのカリキュラムと授業内容・方法による学士課程教育を行います。

IOTモノづくりコースでは、デジタル化技術、ネットワーク化技術及びデータ活用技術の修得に向け、各学科の教育に加え、学科横断のコースカリキュラムにより、IOT課題に対する実践的なプロジェクト推進と課題解決に向けた教育課程を編成し、行います。

■機械システム工学科

1. 意欲喚起型科目（AUT教育入門、修学・キャリア形成1等）に始まり、数理基礎、工学基礎、専門、応用各科目へと段階的・体系的に修得でき、現場対応型やプロジェクト実習型などの実験・実習を多く取り入れた実学実践教育によって「ものづくり技術の楽しさ」を体得できるようにしています。
2. 機械技術者に必要な科目の学習を通して、機械システム設計の考え方や理論を学び、機械の実験や機械の実習を体得して理解を深め、主体的で積極的に行動でき成長を実感できるようにしています。
3. お互いに教えあう協同学習やグループ学習を取り入れた授業によって、専門の学力を活かせる協調性や人間性を養い、「意欲」と「人間性」と「能力」の3要件がバランスよく向上し、実践力・設計力および製作力を身に付けた機械技術者の養成を目指しています。
4. 特別選抜コースの「IOTモノづくりコース」では、上記1～3に加えて、IOTのコア技術であるデジタル化技術、ネットワーク化技術等を段階的・体系的に学習することで、IOT時代のモノづくりを担う機械設計技術者の養成を目指しています。

■機械システム工学科 一級自動車整備士養成課程

1. 問題解決型科目（総合整備実習等）に始まり、エンジン工学、自動車システム工学、専門、応用各科目へと段階的・体系的に修得でき、現場対応型やプロジェクト実習型などの実験・実習を多く取り入れた実学実践教育によって「整備技術の楽しさ」を体得できるようにしています。
2. 整備技術者に必要な科目の学習を通して、自動車整備の考え方や理論を学び、自動車性能実

験や故障診断実習を体得して理解を深め、主体的で積極的に行動でき成長を実感できるようにしています。

3. お互いに教えあう協同学習やグループ学習を取り入れた授業によって、専門の学力を活かせる協調性や人間性を養い、「意欲」と「人間性」と「能力」の3要件がバランスよく向上し、実践力・整備技術を身に付けた自動車技術者の養成を目指しています。

■電子ロボット工学科

高等学校段階までの基礎学力から段階的に専門分野への知識の修得ならびに実践的な教育を学べるように以下の教育を行います。

1. 初年次及び共通教育では、協同学習を多く取り入れた科目を通して学びに対する意欲喚起を図るとともに、主体的な基礎素養の修得を通して自ら考える力の基盤を身につけます。
2. 「共通教育科目」では、基礎学力に応じたクラス編成の基に基礎学力を強化し「専門基礎科目」との連携を図れる科目体系とし、無理なく共通教育から専門基礎への修得ができるようにします。
3. 専門基礎科目群では、IT工学(Information Technology)や電気電子工学、機械工学の原理や技術に関する専門基礎知識を修得し、複合技術の意味を理解します。基礎科目と専門科目との関わりを持たせ、実践的な専門能力は、課題解決型学習を取り入れた電気物理基礎・同実験、電子基礎・同実験とプロジェクト実習を通して、総合的に学習意欲の向上を図りながら習得します。
4. 専門科目群では、電子制御やロボットに関する専門技術を修得し、設計力と応用技術力を身につけます。あわせて、座学と連携した実践的なプロジェクト実習によって、実践力を兼ね備えた創造力を養いながら、論理的に問題解決を図り、モノを具現化できる製作力を身に付けていきます。IoTモノづくりコースの科目群では、IoTに関連する実践的な専門内容を修得し、3学科共同型実習でIoT課題に取り組み、課題解決に向けた総合力を身に付けます。

■情報メディア学科

IoTをも視野に入れた実践力・設計力および製作力を身に付けた情報技術者の養成を目指し、以下の教育を行います。

1. 共通教育科目、意欲喚起型科目を通して「意欲」「人間性」「能力」をバランスよく向上させ、専門科目の修得に必要な基礎を身につけます。
2. 専門基礎科目群を通してコンピュータシステム、情報処理、プログラミング、メディアデザインなどの基礎を学ぶとともに、演習科目、実験科目、プロジェクト演習型科目を通して座学と連携させ、主体的学ぶ意欲を引き出し、仲間と協力して課題に取り組む協調性を身につけます。
3. 専門科目群では、コンピュータの動作原理やプログラミング、ソフトウェア、ネットワークといった情報工学の分野について、応用まで深く学びます。さらに学生の志向に応じて、コンピュータを利用した各種デジタルコンテンツの制作手法についても学ぶことができるようにしています。
4. IoTモノづくりコースでは上記に加え学科横断のIoTコースカリキュラムおよび学科の

指定した関連科目を学びます。

5. インターンシップを通して社会・産業とのつながりを学び、自立に必要な意欲・人間性を養成します。

工学部・学科の授業の方法・内容・授業計画（シラバス）

[学生便覧・講義要項](#)

工学部・学科の年間の授業計画（学年暦）

[行事予定](#)

大学院

大学院の授業の方法・内容・授業計画（シラバス）

[授業科目](#)

大学院の年間の授業の授業計画（学年暦）

[行事予定](#)

学修成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報

工学部

工学部の学修成果の評価

合 否	評語	点数	G P
合 格	秀	100点～90点	4
	優	89点～80点	3
	良	79点～70点	2
	可	69点～60点	1
不合格	不可	59点以下	0

工学部の卒業要件

工学部・学科 / 単位数、条件	共通教育科目	専門教育科目	合計
機械システム工学科 電子ロボット工学科 情報メディア学科	49 単位以上	75 単位以上	124 単位以上

工学部の取得学位

工学部・学科 / 学位	取得学位
機械システム工学科 電子ロボット工学科 情報メディア学科	学士（工学）

工学部の進級要件

工学部・学科 / 学位	進級要件	
機械システム工学科 電子ロボット工学科 情報メディア学科	2 学年への進級	3 学年への進級
	25 単位以上	60 単位以上

工学部の卒業研究の着手条件

卒業研究は、下表の学科が定める修得総単位数及び授業科目の単位修得を満たした場合、指導教員の指導のもとに着手できるものとする。ただし、4年次に進級した者で、下表の修得総単位数及び4年次進級時の条件を満たさない学生は、条件を満たした後に卒業研究に着手できるものとする。

工学部・学科 / 学位	修得単位数及び授業科目名等
学科共通	100単位以上 ・数学素養の履修を指定された者は、数学素養の単位を修得しているものに限る。
機械システム工学科	・3年次前期終了時：工学基礎実験1、同2、プロジェクト実習1、同2、同3のすべての科目の単位を修得している者に限り卒業研究（「卒業研究導入」の科目）に着手できる。 ・4年次進級時：工学基礎実験1、同2、プロジェクト実習1、同2、同3、同4の科目の単位を修得している者に限る。また、一級自動車整備士養成課程にあっては、プロジェクト実習3、同4の科目の単位を修得している者に限り「卒業演習」「卒業研究」の科目に着手できる。ただし、「卒業研究」は、GPAが2.8以上かつ課程内成績順位が3位以内である者に限る。
電子ロボット工学科	・3年次前期終了時：電気基礎・同実験、電子基礎・同実験、プロジェクト実習1、同2、同3の科目の単位を修得し、必修科目の単位未修得科目が6単位以内である者に限り卒業研究（「卒業研究1」の科目）に着手できる。 ・4年次進級時：電気基礎・同実験、電子基礎・同実験、プロジェクト実習1、同2、同3、同4の科目の単位を修得し、必修科目の単位未修得科目が6単位以内である者に限る。 ※ここでいう必修科目には、1、2年次の選択必修科目を含むものとする。IoTモノづくりコースは、コース指定科目に係わらず、学科の基準に準ずる。
情報メディア学科	・4年次進級時：情報メディア演習1、同2の科目の単位を修得し、かつ、スマホアプリ開発演習、ソフトウェア開発プロジェクト、ネットワーク実習、組み込みシステム実験のうち2科目以上の単位を修得している者に限る。

2. 卒業研究着手の認定は、教授会における卒業研究着手判定会議の議に付し学長が行う。
3. 卒業研究の専攻分野については、所属学科の系科目を履修した学生の単位修得状況に十分配慮して指導するものとする。
4. 決定した卒業研究の専攻分野については、テーマの変更は認めるが、専攻分野の変更は認めない。ただし、所属学科の都合により、専攻分野を変更させることができるものとする。
5. 第1項に定める卒業研究に着手できる修得総単位数及び条件に満たない者のうち、学科長が特別なやむを得ない理由があると認めた場合は、教授会の議に付し学長が卒業研究着手を認めることがある。

工学部の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の教育課程を修了し、教育目標「自立と夢の実現」達成の基本的要件である「意欲」と「人間性」と「能力」をバランスよく向上させ、総合力と実践力、あわせて設計力と製作力を身に付けた者に対して学位授与を行います。

■機械システム工学科

機械システム工学科の教育課程を修了し、機械技術者として必要となる多くの人々と協力や協調して作業ができ、機械の企画・設計・開発・製造などの基礎技術や考え方を修得し、「意欲」と「人間性」と「能力」のバランスある向上を果たし、実践力・設計力および製作力を身につけた者に対して学位授与を行います。またI・O・Tモノづくりコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対してI・O・Tモノづくりコース修了証を授与します。

■機械システム工学科 一級自動車整備士養成課程

機械システム工学科の一級整備士養成課程を修了し、自動車技術者として必要となる多くの人々と協力や協調して作業ができ、自動車の企画・設計・開発・製造などの基礎技術や考え方を修得し、「意欲」と「人間性」と「能力」のバランスある向上を果たし、実践力・整備技術力および環境保全、自動車法令を身につけた者に対して学位授与を行います。

■電子ロボット工学科

学科の教育課程履修単位を修得し、共通基礎科目による専門分野の基盤をなす基礎学力と専門教育科目による専門能力を身に付け、かつ「意欲」と「人間性」と「能力」の3要件をバランスよく向上し、電子自動制御分野やロボット工学分野で活躍ができる実践力・設計力および製作力を身につけた者に対して学位授与を行います。またI・O・Tモノづくりコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対してI・O・Tモノづくりコース修了証を授与します。

■情報メディア学科

共通教育科目、意欲喚起型科目、学科の教育課程を通して、「意欲」「人間性」「能力」をバランスよく向上させ、情報システム開発など情報工学の分野、あるいはコンピュータを用いたデジタルコンテンツ制作の分野で活躍できる実践力・設計力および製作力を身に付けた者に対して学位授与を行います。またI・O・Tモノづくりコースに特別選抜され指定された科目を修得した者に対してI・O・Tモノづくりコース修了証を授与します。

大学院の学修成果の評価

合 否	評価の表示方法	点数区分
合 格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点以下

大学院の修了要件

■博士前期課程の修了要件

2年以上在学し、学則第26条の規定により専攻分野について修了要件として定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格したものとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

■博士後期課程の修了要件

3年以上在学し、学則第26条の規定により専攻分野について修了要件として定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格したものとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、2年以上在学すれば足りるものとする。

修了要件として定める修得単位

区分	修得単位数	
	博士前期課程	博士後期課程
必修科目	14単位	12単位
選択科目	16単位	4単位
計	30単位以上	16単位以上

大学院の取得学位

研究科・課程・専攻	学位及び専攻分野の名称
工学研究科博士前期課程システム工学専攻	修士（工学）
工学研究科博士後期課程システム工学専攻	博士（工学）

校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報

校地、校舎等の施設、設備等

校地

校地面積	設置基準上必要校地面積	校舎面積	設置基準上必要校舎面積
60,705 m ²	9,900 m ²	25,323 m ²	13,437.3 m ²

校舎

種別	通称	延べ面積 (m ²)	地上 (階)	主要施設	備考
校舎	1・2号館 学生ホール	8,113.11	5	学長室、事務局、学務部、入試広報センター、キャリアセンター、ものづくり工作センター、学生ホール、(自動車短期大学研究室、講義室)	短大と共用
実習棟	3号館	1,829.00	3	エンジン性能実験室、排気ガス分析室、材料実験室、溶接実習室、電子制御実習室、電装実習室、機構整備実習室	短大と共用
	5号館	2,938.22	5	講義室、第三自動車実習場	短大専用
	自動車棟	5,128.84	5	第一自動車実習場、走行性能実験室、講義室、第二自動車実習場、エンジン実習室、教員室、一級課程実習場、屋上実習車両置場	短大と共用
図書館	4号館	2,423.00	3	図書閲覧室、学生食堂、大講義室	短大と共用
体育館	体育館	2,836.00	3	体育館兼講堂、多目的体育室(トレーニングルーム)	短大と共用
校舎	6号館	6,021.80	8	図書館、機械工作室、CAD/CAM実習室、LL教室、パソコン実習室、流体実験室、機械力学実験室、宇宙機システム実験室、複合材料・自然エネルギー実験	短大と共用

				室、知的情報処理実験室、大講義室 (1)、大講義室 (2)、宇宙システム研究所	
校舎	7号館	9,292.71	9	環境工学実験室、熱工学実験室、材料力学実験室、新素材応用実験室、エンジン制御実験室、ロボット・メカニクス実験室、電子知能ロボット実験室、リモートセンシング実験室、光エレクトロニクス実験室、マイクロロボット実験室、ITS 情報センシング実験室、メディア情報処理・パターン認識実験室、メディア情報圧縮実験室、装置実装要素技術実験室、Web コンテンツ応用実験室、音声・音響情報処理実験室、工学基礎実習室、機械システム実習室、計測システム実習室、ロボット実習室、電子工作室、CAD 実習室、情報メディア実習室、マルチメディア実習室、コンテンツ制作スタジオ、製図室、院生研究室、中講義室、講義室、COMMONルーム、会議室	大学専用
校舎	ホール棟	1,696.76	4	学生ホール、売店、書店、大会議室、AUT ホール、総合教育センター	短大と共用
校舎	テクノゆめトピア	725.82	3	流体工学実験室、振動工学実験室、次世代自動車システム研究所	大学専用
校舎	ものづくり工房	536.00	2	ものづくり工房	短大と共用
校舎	8号館	1,340.00	2	自動車実習場、課外活動クラブ部室	短大と共用

※すべての校舎において耐震化率 100 パーセントを達成しています。

キャンパス紹介

キャンパスライフ

キャンパスマップ

[キャンパスマップ](#)

授業料、入学料、その他大学が徴収する費用に関する情報

工学部の学費

大学		入学金	授業料	教育充実費	施設費	合計（年額）	学費の額
工学部	1 年次	300,000	840,000	250,000	100,000	1,490,000	前期 895,000
		—					後期 595,000
	2 年次	—	850,000	250,000	100,000	1,200,000	前期 600,000
		—					後期 600,000
	3 年次	—	860,000	250,000	150,000	1,260,000	前期 630,000
		—					後期 630,000
	4 年次	—	870,000	250,000	150,000	1,270,000	前期 635,000
		—					後期 635,000

大学院の学費

大学院		入学金	授業料	教育充実費	施設費	合計（年額）	学費の額
博士前期課程	1 年次	150,000	500,000	150,000	100,000	900,000	前期 525,000
		—					後期 375,000
	2 年次	—	510,000	150,000	100,000	760,000	前期 380,000
		—					後期 380,000
博士後期課程	1 年次	150,000	520,000	150,000	100,000	920,000	前期 535,000
		—					後期 385,000
	2 年次	—	530,000	150,000	100,000	780,000	前期 390,000
		—					後期 390,000
	3 年次	—	540,000	150,000	100,000	790,000	前期 395,000
		—					後期 395,000

大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関する情報

学習支援

■総合教育センター 受付時間：平日（月曜日～金曜日）9：00～17：00

総合教育センターは、基礎教育部門、教育連携部門、初年次教育部門の三部門で構成されています。センターは本学の教育目標達成のための教育推進の核となり、短大および工学部各学科、各センター、および学務部と連携し、共通教育のデザインと実施、共通教育と専門教育およびキャリア教育の連携、および、キャリア教育と結合した初次教育のデザインと推進を担当しています。

<基礎教育部門>

主な役割は、基礎教育の内容、方法、環境の充実、カリキュラムの整備、課外教育の学習支援です。共通教育における科目間連携、習得内容や到達目標の策定、授業の進め方としての工夫や授業進行速度の調整を図ります。また、雁行型教育科目（英語、数学、物理）の進行状況や内容、実施方法などを教員間の状況把握をしながら確認を行います。雁行型科目以外の科目の授業について教員の意識合わせも行います。

<教育連携部門>

主な役割は、基礎教育と専門教育の連携、教育に関する組織間連携、教員にとっての大きな意識改革を促すこと、入学前教育と、プレイスメントテスト／アチーブメントテストの改善と実施、入学前教育、初年次教育、共通教育、専門教育、キャリア教育を体系立てて、関係組織間連携を図ります。簡単に言えば、入学直前から卒業・就職まで、皆さんへの一連の教育を体系的に整備することを担います。

<初年次教育部門>

主な役割は、雁行型教育科目と意欲喚起型科目（A U T教育入門、修学・キャリア形成、キャリア教育）の実効ある推進を図ることと、継続的な改善、初年次教育の内容と方法を、よりHigh Impact Practice（能動的な学習法やグループで学習課題に取り組む方法などで、社会とのつながりを強く意識する教育）なものに向けた改善を行います。基礎教育部門と密な連携を取り、雁行型科目授業に関しての修得状況や進め方、授業法に関する状況を把握した上で、初年次教育体系のあり方を策定していきます。

学習支援は、個別指導の形式で行っています。学生のみなさんが安心して授業に臨め、より楽しく、充実した学修ができるよう、センター教員がマンツーマンで基礎科目の個別指導を行い、理解や習熟度を高めます。個別指導では、高校で履修していなかったり苦手意識があったりした科目が原因で、大学講義についていけるかどうか、不安を持つ人に家庭教師のように対応しています。もちろん、さらに進んで学習したい人も大歓迎です。

キャリアセンターの就職支援

- [就職支援体制](#)
- [資格支援体制](#)
- [就職実績](#)

奨学金制度

■入学前

- ・大学入学共通テスト利用奨学金
- ・指定校特別奨学金

■在学中

- ・ファミリー奨学金
- ・学修奨学金
- ・恒学基金奨学金
- ・教育ローン利子補給奨学金

授業料免除制度

- ・授業料免除

心身の健康に対する支援

○保健室

簡単なケガや病気の応急処置を受けたり、備え付けのベッドで安静・休養をとることができます。必要に応じ、医師の診療を受けてもらったり、帰宅させたりすることがあります。

○学生相談室

学業や学習意欲、進路などの修学上のこと、経済的問題や家庭問題、対人問題や学生生活における問題などについて、相談を受けサポートしています。

研究活動の不正防止等に関する相談窓口、告発窓口に関する情報

研究活動の不正行為等に関する相談窓口、告発窓口

■相談窓口・告発窓口

愛知工科大学 事務局庶務課

■住所

〒443-0047 愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2

■電話番号

0533 - 68 - 1304 (内線 2174)

■FAX

0533-68-0352

■メールアドレス

shomu@aut.ac.jp

■受付方法

電話、FAX、電子メール、書面、面談